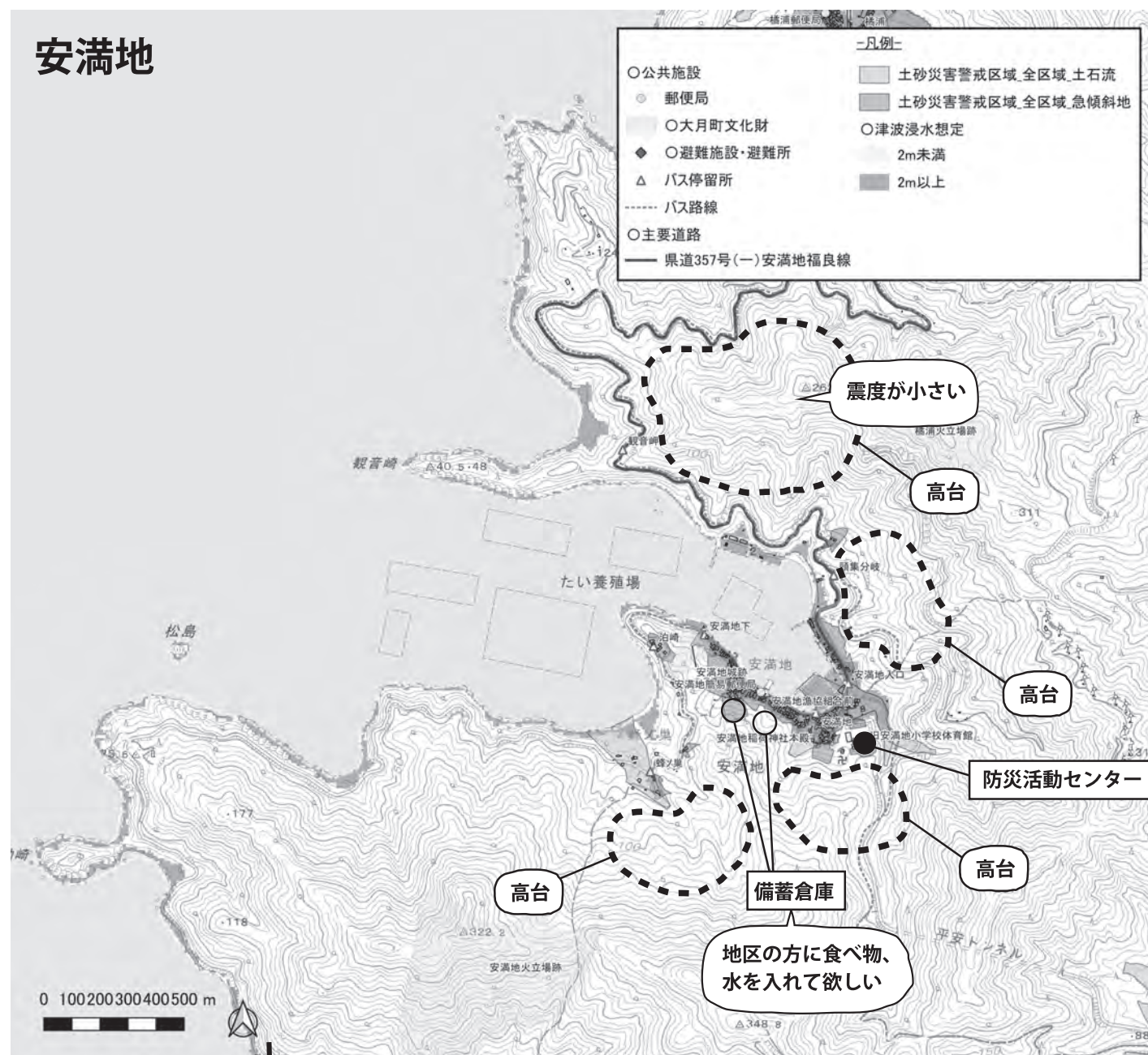


安満地



『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。

※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定の取組	→ 計画策定			
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第1回（今回） 地区の状況を共有する	第2回（仮） 復興目標を考える	第3回（仮） 土地利用を考える	第4回（仮） 地区での準備を考える
				パブリックコメント

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel：0880-73-1140 Fax：0880-73-1380



大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやInstagramで発信しています！ぜひフォローしてください！

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

安満地

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。
地区についてたくさんの意見がでました！

2024年12月6日（金）9:30～11:30、安満地集会所にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイディアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6～8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 安満地の担当職員の紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



中田 政也 山本 優 山岡 大樹 乾 夏夫

安満地地区住民の皆さまの防災安全のために尽力いたします。

皆さまと話し合った内容を
2～4ページにまとめています。

自然環境が良い！

- 良さ
- ・川があるので水は豊富にある
 - ・釣り、ダイビングができる（ダイビングといえば柏島よりも安満地）

宿泊施設など観光資源がある

- 良さ
- ・釣り、ダイビング、宿が3件ほどある
- アイデア
- ・宿泊キャパが少ないので宿泊場所の拡大

文化的なこと

- 良さ
- ・地区の盆踊りがある（インドネシアの研修生も参加してくれる）
 - ・総会やお祭りで地域に人が集まる（地域のつながりが強い）
 - ・福寿がある（美味しい）
 - ・野中兼山の作った「はそ」がある恵比寿さんがあるところ

漁業など産業のこと

- 良さ
- ・海が深い（海が引いた時に船が安全）
 - ・漁業が盛ん（ただし養殖は外部の企業）
 - ・船が多い（80%は地域、20%は地区外）
 - ・漁協があり職員は常駐している
 - ・魚がおいしい（アジ、サバ、ムロ、マグロ）
- 課題
- ・使っていない船がたくさんあり、処分が心配
 - ・仕事が少ない
 - ・農業がないため食料がない
- アイデア
- ・働ける場所を増やす（建築業など）
 - ・女性が働ける場所を作る
 - ・加工場を作る
 - ・農業や漁業でもちょっとした仕事があればいい
 - ・渡船の観光客を誘致する
 - ・船の処分をするのに費用が掛かるため補助金があるとよい
 - ・空地进行し農業をして雇用できるようにする（農業法人の誘致）

暮らしのこと

- 良さ
- ・山から引いた水道があるので水には困らない
 - ・釣瓶で使える井戸がある（モーターはつけないといけない）
 - ・貸せる土地が沢山ある
 - ・総会やお祭りで地域の人が集まっている
 - ・地域のつながりが強い
 - ・話し合いができる村にする
 - ・近所同士で収穫したものなどを交換できる
 - ・自分で運転をする高齢者が多い
 - ・雲ヶ辻公園がある
 - ・移動販売や生協がある
 - ・簡易郵便局がある

- 課題
- ・若い人が少ない（地元の子どもの数が少ない）
 - ・若い人は出て行ってしまう戻ってこない
 - ・子どもの教育を考えると出てしまう
 - ・倒れかけの家がある
 - ・空き家が多い（倒れかけている）→道沿いの空き家に動物が住み着いている
 - ・国土調査事業も進んでいるが未着手な部分が多い
 - ・野良ネコが多い

- アイデア
- ・人口減少対策をする
 - ・住みやすいところを増やす
 - ・猫去勢手術の補助金を使う
 - ・国土調査は地域住民の理解を得て早期完了に向けて取り組む

外国人研修生がいる

- 良さ
- ・地区の盆踊りにインドネシアの研修生も参加してくれる
 - ・インドネシアからの研修生が多い（20代が20人くらいいる）
- 課題
- ・外国人も多くいるが言語が異なるため円滑な意思疎通が難しい
- アイデア
- ・インドネシアの研修生とも協力できるようにする
 - ・外国から働きに来ている人たちの避難も考えなくてはいけない

防災について

- 良さ
- ・防災センターがあり、安心
 - ・お宮が津波浸水外にある
 - ・山が近くにあるから避難しやすい
 - ・家の耐震化は進んでいる
 - ・消防団に若い人が多く助け合える
 - ・防災意識が高く、地域の危険な場所が分かっている
 - ・地域の避難地図を作成している
 - ・独自の避難訓練を実施している
 - ・要介護の方の情報を整理している（薬の情報もある）
 - ・高齢者に、せめて玄関までは自力で出てきておくようにと日ごろから伝えている

- 課題
- ・水道管が古く、地震の時に水が心配
 - ・埋め立てた土地が崩れないか心配
 - ・大雨で山からの谷水で浸水する
 - ・津波の被害が心配
 - ・赤線（幅90センチの畑のあぜ道、昔地震が起った時に逃げた道）が現在は手入れしていない
 - ・避難所近くに危険なブロックがある
 - ・倒れかけの家が避難路を塞ぎそうで心配
 - ・地震が起きたら孤立してしまう
 - ・災害時にほかの地区との連携ができるか心配
 - ・どこまで避難したら良いかわからない（お宮までいけば大丈夫と聞くが不安）
 - ・避難するときに手助けしてもらえるか不安

避難する時に荷物を持って行けるか？
高齢者の避難を手助けしてくれる人がいるか？

- ・災害時のプライバシーが守られたトイレがない
- ・高齢化で避難所となる小学校の手入れされていない（埃、カビなどのにおい、草刈りができない）
- ・発災後の備蓄が心配（薬など）
- ・夜の避難が危険

- アイデア
- ・災害情報の詳細が分かるようにできるとよい（予測ができるように）
 - ・耐震化、空き家の除去に補助金を活用する
 - ・避難経路に停電でも点く明かりをつける
 - ・活動センターに備蓄ボックスを置く
 - ・避難物資を事前に避難場所に用意しておく（十分な食料など個人的に備品を置くのもあり）

道路・公共交通のこと

- 良さ
- ・大月まではバスが無料（70歳くらいから）→宿毛まで無料にしてほしい
 - ・トンネルができてすごく近くなった
- 課題
- ・道が狭く緊急車両が地区内へ入れない
 - ・公共交通が少ない
 - ・公共交通は時間が限られていて使いづらい
 - ・トンネルが狭く、養殖業者などの大きいトラックとすれ違えない
 - ・山道が多くて運転がしんどい。町へてアクセスも心配
 - ・役場まで遠い
 - ・夜が暗い（街灯がない）

- アイデア
- ・街灯を増やす
 - ・道路の整備、拡張、強化
 - ・タクシーなどの移動が自由にできる交通手段への補助金

まちづくりの方向性

- 若者に仕事、地域に活気を取り戻す
 - ・漁業法人の誘致
 - ・地域の人が行けるような魚加工場の建設
- 住みやすいまち
 - ・空き家を活用し、若い人を呼び込む（移住者を増やす）
 - ・なだらかな坂道で高台の造成
 - ・買い物ができ、病院や役場がある住みやすいまちであってほしい
- 災害のあとも住み続けられるまち
 - ・漁業を再建して安満地に戻ってきたい
 - ・生業があるので地元で復興したい
 - ・どこに、いつまで避難するかルートや場所などを確認する
 - ・活動センターや避難路の維持管理を定期的に地区で行う
 - ・事前に集団移転したい
 - ・地区でまとまって暮らしたい
 - ・姫ノ井など津波が来ないところに移住したい
 - ・住み慣れたところに住み続けたい